

修士論文(要旨)
2011年1月

教室外言語環境に関する一考察
—在日中国朝鮮族の対人環境例から—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科
言語教育専攻
207J4016
朴雪錦

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	1
1.3	先行研究	2
1.3.1	在日中国朝鮮族	2
1.3.2	学習環境	3
第2章	調査概要	7
2.1	調査協力者	7
2.2	調査方法	7
第3章	調査結果と分析	9
3.1	調査結果	9
3.2	分析	14
3.2.1	居住先領域	15
3.2.2	同国人領域	17
3.2.3	日本語学校領域	20
3.2.4	アルバイト領域	22
3.2.5	日本語学校生活の自己評価	24
3.2.6	日本の留学生政策などについて	26
第4章	考察および今後の課題	31

参考文献

資料

要 旨

1983年当時の中曽根首相が「留学生10万人計画」を打ち出し、それ以降、日本への留学生数は飛躍的に伸びていった。文化庁2009年度実態調査によれば、国内における日本語学習者数は170,858人となっており、過去最高となっている。もっとも多くの日本語学習者を持つ国は中国で、その学習者は82,675人に達している。(文化庁2009)このような中国で、東北三省(黒龍江省、遼寧省、吉林省)は特に日本語教育が盛んな地域である。更に、この地に居住する少数民族の朝鮮族は中学校の時代から日本語を外国語として学んでいる学生が多い。そのため、高校あるいは大学卒業後、日本への留学を選択する学生も少なくない。稿者はこのような中国朝鮮族の日本語学習者たちが来日直後、教室外でどのような言語環境の中において、またどのように日本語を習得していくかに興味を持った。

本研究は、現在、日本社会で社会の成員として機能している3人の日本語学習の成功者が自分の来日直後教室外でどのような対人環境の中にいたのか、またその対人環境との相互作用をどうとらえているかを明らかにすることから、望ましい日本語学校のあり方、および日本語教育のあり方について考えるものである。さらに、本研究では、3人の調査協力者の過去の日本語学習者としての経験と現在在日外国人生活者としての立場を踏まえて、日本の留学生政策や外国人受け入れ政策などについても考察する。

本調査では、調査協力者の日本語学校生時の対人環境(人的リソース)を掴むため、日本語学校に通ったときのある1ヶ月を振り返って、よく話をしたり、よく一緒に行動をしたりした人を国籍を問わず5人程度挙げてもらった。また、それぞれの人的リソースとの相互交渉が調査協力者の「日本語学習」、「日本の文化・習慣の学習」に役に立っているかどうかを調査協力者自身から評価してもらった。

さらに質的な情報を得るため質問紙調査と観察・回想ノート(調査協力者について稿者の気付きを記録)に基づいて2回のインタビューを行い、関連箇所を文字化した。

調査結果からは、日本人との接触、日本語の使用が調査協力者の日本語学習に役立っているということ、日本語学校とは、知識として日本語を学ぶ場であり、バイト先は日本語の実質使用の場であると位置づけられていること、日本語教師以外の方が日本語教室以外の場所に関わりを持っていることなどが見えてきた。また、日本での留学を終えて就職した調査協力者たちは、日本での生活の長期化によって言葉や生活の適応が進み、全体的に、日本での生活基盤がある程度形成されたという認識があることが見て取れた。

外国人の定住が進んでいる日本で、外国人をただの「外国人」として受け入れるのではなく、日本に居住している日本の「生活者」として受け入れる積極的な姿勢の必要性を指摘したい。

参考文献

- 尹明実 (2007) 「東アジア就学生の教室外における異文化コミュニケーション —アルバイト・社交場面を中心に—」 桜美林大学大学院言語教育専攻 2007 年度修士論文
- 金明姫 (2004) 「日本における中国朝鮮族の生活と意識：在日中国朝鮮族就学生、留学生、社会人を事例として」 『人間科学研究』 第11巻2号
- 許英玉 (2002) 「中国朝鮮族の日本への国外移動と日本での生活実態：就学生を中心に」 一橋大学社会学研究科2002年度修士論文
- 黄有福 (2006) 「東北アジア時代と中国朝鮮族」 『朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』 アジア経済文化研究所
- 田中望・斉藤里美 (1993) 『日本語教育の理論と実際—学習支援システムの開発—』 大修館書店
- 西口光一 (2001) 「状況的学習論の視点」 青木直子・尾崎明人・土岐哲 (編) 『日本語教育学を学ぶ人のために』 pp. 105~117 世界思想社
- 浜田麻里 (2006) 「学習環境と日本語支援」 『学習環境を考える』 2006 年度日本語教育学会第4回研究集会報告書
- 浜田麻里・林さと子・福永由佳・文野峯子・宮崎妙子 (2006) 「日本語学習者と学習環境の相互作用をめぐって」 『日本語教育の新たな文脈—学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性—』 pp. 66~101 アルク
- 林さと子 (1998) 「第二言語学習/習得と個別性要因」 『第二言語としての日本語学習および英語教育の個別性要因に関する基礎的研究』 平成8年度-9年度科学研究費補助金研究報告書 pp. 7~13
- 林さと子 (2005) 「日本語学習の多様性と個別性—第二言語習得研究の視点から—」 『津田塾大学紀要』 37 pp. 25~41 津田塾大学
- 林さと子 (2006) 「第二言語習得研究から見た第二言語学習/習得の個別性」 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ (編) 『第二言語学習と個別性—ことばを学ぶ一人ひとりを理解する—』 春風社
- 朴鮮花 (2005) 「海外移動先における社会ネットワーク形成についての一考察：「在日本中国朝鮮族」の事例より」 東京経済大学大学院コミュニケーション学研究科2005年度修士論文
- 水野光晴 (2001) 『外国語習得—その学び方 100 の質問』 研究社
- 권태환 (2005) 『중국조선족사회의변화:1990 년이후를중심으로』 서울대학교출판부

参考サイト

- 権香淑 (2006) 「第5章 越境する〈朝鮮族〉の生活実態とエスニック・ネットワーク —日本の居住者を中心に—」 『韓国系ニューカマーズからみた日本社会の諸問題』
http://www.syaanken.or.jp/02_goannai/01_bouhan/bouhan1803_01/pdf/bouhan1803_01.pdf
- 宇佐美まゆみ (2007) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007 年 3 月 31 日改訂版」
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj070331.pdf>
- 文化庁 http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittaiichousa/h20/gaiyou.html
- 朝鮮族ネット(中国の朝鮮族に関するニュースポータルサイト)
<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/index.html>